



小山田 剛 士
(黎明親和会)

一本松地区の安否確認の取組を 高齢者の多い地域に勧める考えは

様々な機会を通じて紹介していく

問 高齢者の孤独死に対する市の取組は。

答 孤独死をできるだけ防ぐため、早く異変を発見できるよう、高齢者の見守り活動に協力するあんしん見守り協力隊への登録を推進しています。現在、新聞店や郵便局、介護サービス事業所や店舗等、239団体の登録があり、通常業務の中で高齢者に関心を寄せ、見守り、気になることがあったときには、地域包括センターに連絡してもらいながら早期発見、対応に努めています。また、町内会長、民生委員、老人クラブ会員の声がけや見守りでいつもと違うと気づいたときには地域包括支援センターに相談していただき、高齢者の見守り支援に努めています。

問 一本松地区では、日本一安心なむらづくり事業として、黄色い旗を玄関先に掲げて、町内会の班長が各戸の安否確認をする取組が行われている。あくまでも安否確認の取組だが、そこで顔を合わせれば挨拶や会話にもなり、ふだんからコミュニケーションを図るきっかけになっている。コミュニケーションをいかに取っていくかが孤立を防ぐ一歩となると考えるが、この手法を特に高齢者数が多い地域に情報を提供し、勧めていく考えはないか。

答 一本松地区の黄色い旗の活動は、同じ地域に住む人たちの見守る側と見守られる側のどちらも行動を起こすことにより、タイムリーに高齢者の異変を発見することができる安否確認方法であり、孤独死に対する有効な手段の一つであると認識しています。一本松地区の活動については、地域で抱える課題の共有と地域の支え合いから、高齢者の安心感やコミュニケーションの活性にもつながる取組として、今後ほかの地域に様々な機会を通じて紹介していきたいと考えています。



山 端 美樹子
(自民公明クラブ)

のづき内科小児科クリニック前の 交差点の事故防止対策は

交差点クロスマークを設置し 注意を促している

問 のづき内科小児科クリニック前の交差点の事故防止対策は。

答 十和田警察署と協議を行い、交差点内に目の錯覚により立体的に浮き出て見える交差点クロスマークを設置し、ドライバーに注意を促しています。降雪期は融雪剤散布などを行い、確認できるよう努めていきたいと考えています。

問 親子で遊べる公共施設、公園、駐車場やトイレなどが掲載された公園マップが欲しいという市民の声があるが作成する考えは。

答 新たに作成する予定はありませんが、子どもすこやか手帳に掲載の市内ご案内マップを活用していただくよう周知するとともに、更新時は、駐車場や多目的トイレの表記も含め、見直しを考えています。

問 医療的ケア児に対する一時預かりの環境は。

答 市内に未就学児を療育する児童発達支援センターが1か所ありますが、就学後の受入れを行っている施設はありません。

問 医療的ケア児の災害避難計画策定状況は。

答 市内に居住する医療的ケア児6名のうち、避難行動要支援者名簿への登録を希望する方が2名で、そのうち1名が計画策定済みとなっています。

問 医療的ケア児にとって災害時の停電は命に関わると考えるが、どのような支援を行っているか。

答 災害時は避難場所に避難するより自宅にいるほうが安全な場合もあることから、医療的ケア児のご家族に対し、発電機、蓄電池の購入について、基準額の範囲内であれば1割の負担で購入することができることを説明しています。